



写真1



写真2

●冬越しをするブナの苦勞

今年は何年になく雪が降っては消え、平地にあまり積もっていませんが留山はがっちり雪が積もっています。低木や冬越しする草たちは雪の下で春がくるのをじっと待っています。ブナは雪の上に体のほとんどを出しているのに、冬の間は寒さを防ぐために大変な苦勞をします。

ブナにとって最も恐ろしい事は幹の中にある水が凍ってしまわないかという事です。冬の間、水を蓄えていなければ、その心配がないのですが、それでは木の皮のすぐ内側にあります大切な細胞が死んでしまいます。もし、そんな事が起こるとその木は春になっても細胞を増やすことができません、やがて死んでしまいます。

スギやマツなどは厚い皮を着けているので細胞が凍ることはまず無いようです。ところがブナの皮は5mmほどしかありません。これでは寒さを防ぎきれないようです。

●ブナの工夫

そこでブナはある工夫をしました。木の中にある水に糖分を加えるのです。そうすると水は0℃以下になっても凍りません。この方法を用いて冬を越している木には力エデの仲間もあります。冬に力エデの小枝を折っておくと、ツララが出来ますが、それをとって食べるとまるで甘いアイスクャンデーを食べているようです。

写真1のブナは留山で最も太い木でもう200回近くも冬を越しています。ところが同じブナでも必要な糖分を作れないブナも出てきます。

そのブナの木も寒い北風にさらされまます。するとバーンという大きな音とともに幹が縦に割れることがあるといひます。春になるとそのブナはどうなるのでしょうか。

写真2は留山のブナ林ではなく二ツ森に登る途中にあるブナ林の様子です。この場所は谷底から吹き上げてくる風の通り道になっている所で気温がとても低い場所です。標高も800mを越えているので、留山とは比べものにならないくらい低温になります。

そのような場所に生えているブナは、糖分が十分でないらしく、幹の中の水分は凍ってしまいます。そうすると、水分の体積が増えて、その力で幹を割ってしまうのです。

さて、そのブナはどうなるのでしょうか。それが生き延びる場合が多いようです。生々しい縦にできたキズをやがて少しずつ修復していくのですが、そのキズ跡はずーっと後々にまで残るのです。

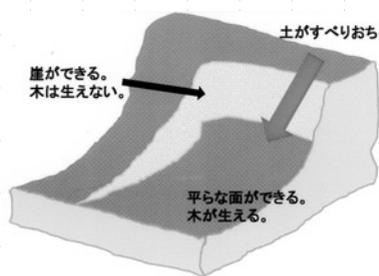
このようにして生きてきたブナが写真2の中に1本見られます。さてどのブナの木でしょうか？そうです、左手にある太いブナの幹をよく見て下さい。下の方から上の方に細長い“みぞ”が見えますね。これがキズ跡なのです。

●留山は地すべり地形

それにしては留山のブナが過去に割れたと思われる数が非常に少ないのです。もしかしたら、そのようなブナの木は無いのかもしれない。留山のブナ林はなぜ凍りにくいのでしょうか。これには深いわけがあります。

実は留山の大地は地すべりのできた形となつていのです(イラスト)。山がくずれゆるやかな傾きの地面ができ上がります。するとその部分がより低いので風当たりが弱まってしまふのです。まるでブナが冬囲いで包まれている様子となっているのです。

やがて春になると寒い冬を生き抜いた喜びを表すかのように一斉に薄緑色の若芽を出し始めます。その時は、留山のブナたちを祝福に入山するのもしかも知れませんがね。



地すべりのかたち

八峰白神ジオパーク推進協議会

会長 工藤 英美

〒01822612

秋田県山本郡八峰町八森

字ノケソリ116 旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427